

類義表現指導のための一案 (Abstract)

本研究の目的は、日本語教育における類義表現の指導について考察し、新たな指導方法の一案として教材を提案することである。

語彙習得の中でも類義表現の使い分けを習得することは学習者にとって容易ではない。教科書や辞書では同じ英訳が当てられていることも多く、特に学習者がそれだけに頼って学習している場合、表現間の違いを自ら正しく導き出して理解することは困難だからである。学習者が違いを理解することなく使用すると、発話や作文に誤用となって現れてくる。この誤用を防ぐには、学習者が表現を選択する際の理由付けを学ぶ必要があり、そのための教材が必要だと考える。

これに対応するための指導方法の一つとして、現在開発中の教材を提案する。この教材では、それぞれの類義表現は、「解釈」と「練習問題」のページからなっている。「解釈」では、その類義表現間に共通する意味、及び、共有されないそれぞれに特有の意味を、例文を提示しながら英語で解説している。これにより、学習者は使い分けの際の選択の基準を学ぶことができるようになっていく。「練習問題」のページでは、学んだ判断基準を用いて実際に使い分けることができるかを試してみることができるようになっていく。

この教材を用いて、学習者は類義表現間の背景を母国語(英語)で読むことができるため、理解の促進と、それによる使い分けの精度向上が期待できると考える。また、英語と日本語の語彙や表現が一对一で対応しているわけではないという学習者の認知も促進できると期待する。